

春の小川通信

だれもが安心して暮らせる地域に。
障がい者の地域での暮らしを支援しています。

2024. 3

NO.42



特定非営利活動法人 春の小川

〒399-0706 長野県塩尻市広丘原新田 93-1
電話/FAX 0263-51-6393 E-Mail sarasara@dia.janis.or.jp
発行責任者/理事長 小沼芳博

地域での存在感を増すということ

理事長 小沼 芳博

今年度ある研修会で講師の方から、主にグループホーム（以下 GH）の世話人の方に長年の経験をお話しいただくことがあり、感銘を受けたことがあったのでお話ししたいと思います。

その講師の方が属している GH 利用者が、密かに夜 GH を抜け出し、近くのコンビニに行き、お菓子の袋を30袋も破って問題になったことがあったそうです。こんなことが続くと障がい特性という名のもとに、GH として外出をある程度制限する方向すら考えられるのですが、この事件に対する講師の方の見方は（誤解を恐れずにいうと）内心たまにはやってもらいたいぐらいで、支援には迷惑も含め、地域の中の存在感が大切との説明をしていただきました。もちろん生命や財産の危機にならないことが前提なのはいうまでもありません。

この言葉に、受講した関係者が“ほっと”した感覚を持った方が大勢いたことを聞き、とても印象的で、私もまったく同感でした。この研修後、改めて我々の法人の活動とは何だろうと考えてみました。

我々の活動とは、利用者みなさんの地域での存在感を増すために、地域生活を支える大きなチームの一員として、利用者一人ひとりの個性にあった支援をする、というごく当たり前のことにたどり着きました。

但しその活動をする際には心の中に、我々が無力なこと、抱え込まないことを思いつつ、どこかで折り合いをつけ悩みながら支援する態度が大切だということです。なぜかちょっと“ほっと”しますが、頑張りすぎない/べき論をいわないことにも通じ、一番肝心なことだと思いました。

あたりまえの関わり

つくしんぼ 相談支援専門員 上條 順子

「おはようございます」この言葉を緊張せずに自然に言えるようになったと、この頃やっと思えるようになりました。「おはようございます」簡単に言えそうな挨拶ですが、相手の方に合わせてどのタイミングで言ったらよいのでしょうか。

関係性がまだうまく持てない時でも、挨拶をしますが緊張します。挨拶なんてそんなに深く考えないですればいいと思われるでしょうが「たかが挨拶、されど挨拶」。声をかけた時に、相手の方がどんな気持ちになるだろう、どんな表情になるだろうと、つい気になってしまいます。

挨拶を交わすうちにその方が少しずつ分かってきて、声をかけるタイミングにも慣れてきました。そして今では、ちゅーりっぷの利用者さんに「おはようございます」と挨拶できることがあたりまえの関わりになり、1日の始まりが楽しみになっています。

